

新病院（いわき市医療センター）の機能紹介①

新病院（いわき市医療センター）については、本年12月25日の開院を予定していますが、そこに向け、新病院の各種機能の向上などの点について、定期的にお知らせします。

初回である今回は、地域がん診療連携拠点病院として機能向上に力を入れている「がん診療」と当院が東北地方有数の実績を持つ「心疾患診療」についてお知らせします。

【がん診療機能】

平成26年8月に、国の「がん診療連携拠点病院」の指定を受けたこと、また、近年のがん患者の増加に対応するため、新病院では、手術や放射線療法、化学療法を組み合わせた治療の充実をはじめとする、がん診療機能の更なる向上を図ることとしています。

① 手術室の増設：現在の9室から13室へと増室

手術室の増室により、手術枠の拡大を図ることが可能となり、円滑な手術実施が可能となります。

② 放射線治療装置（放射線によりがんを治療する装置）の高性能化

IMRT（強度変調放射線治療）機能の導入により、正常組織への照射を抑えながら腫瘍部分に集中して放射線を照射できるため、腫瘍の形が不整形で複雑な場合や、正常組織が隣接している場合でも、多くの放射線を腫瘍に当てることができ、現在に比べ、より効果的な放射線治療が可能となります。

③ 化学療法室の増床：現在の9床から15床へと増床

化学療法室の増床により、抗がん剤治療を受ける患者さんの待ち時間の負担を軽減します。

④ 診断機器の高性能化

SPECT-CTの新規導入や、CT、MRIの高性能化により、がんの早期発見が可能となります。

【SPECT-CT】

体内に注入したRI（放射性同位元素）の分布状況を撮影する装置で、がんや脳血管疾患などの病変の検査が可能となります。

【CT、MRI】

最新鋭の機器への更新により、高精度の画像診断が可能となるほか、検査時間の短縮も可能となります。

⑤ 緩和ケア病棟（20床）やがんサロン室の新設

がん治療の更なる充実のため、がん特有の痛みを緩和するための「緩和ケア病棟（20床）」を新設するほか、がんに関する相談支援体制の充実のため、がんサロン室を新設します。



【心疾患診療機能】

心疾患について、当院は東北地方有数の実績を有しており、新病院では、心血管撮影装置の更新やハイブリッド手術室の増設などにより、急性期の心疾患診療機能の更なる充実を図ることとしています。

① 心血管撮影装置の高性能化

新病院を契機に、当院が有する2台の心血管撮影装置を最新型に更新し、画質等の改善を図ることにより、より高度な手技への対応を可能とします。

② ハイブリッド手術室の増室（1室→2室）

手術台と血管撮影装置を組み合わせることにより、外科手術とカテーテル治療を一体的に行えるハイブリッド手術室を増室することにより、緊急手術にも迅速に対応できる体制を整備します。

③ 心大血管疾患リハビリテーション室の新設

心大血管疾患リハビリテーション室を新設し、急性心筋梗塞等の患者さんの身体機能の早期回復を支援する体制を整備します。